

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 港営課長
施策名	良好な港湾空間の形成	成果	コスト		
事務事業名	ゴミの不法投棄・放置自動車対策の推進			連絡先	052-654-7873
対象(誰・何を)	臨港地区			連携課	関連事業担当・管財課・港湾管理事務所
目的 意図(どうい う状態にしたいか)	不法投棄されにくい環境に整えます。			事業 期間	平成13年度～
概要	ゴミの不法投棄・放置自動車対策の削減・抑制対策として、臨港地区のパトロールや一斉清掃を行い、投棄や放置をされにくい環境を整えます。			根拠 法令等	港湾法、名古屋港管理組合放置自動車の発生防止及び適正な処理に関する条例
令和元年度の実施予定	引き続き、ゴミの不法投棄や放置自動車の削減・抑制に努めます。			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
				関連 シート	

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	西部地区一斉清掃については、春季(5月24日)、秋季(11月22日)の2回実施しました。放置自動車については、廃物判定基準により廃物として判定された2台の処分を行いました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	7,249	0	7	2,419	H30年度に事業費の考え方の見直しを行いました。令和元年度は、放置自動車2台を処分しました。
人件費	千円	3,676	3,688	3,670	3,678	
合計	千円	10,925	3,688	3,677	6,097	

3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
西部地区一斉清掃(回)	2	2	2	2	2	西部地区は、不法投棄されやすいため、地元事業者及び自治体の協力のもと、年2回の一斉清掃を実施することで啓発に努めます。		
(単年度管理型)	事業進捗状況(元年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る				
放置自動車処分台数(台)	0	0	1	5	5	現在、名古屋港にある放置自動車を適正に処理し、放置自動車の台数ゼロを目指します。(最終年度は令和2年度とします。)		
(単年度管理型)	事業進捗状況(元年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る				
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	西部地区の一斉清掃、放置自動車の処分台数ともに計画どおり実施し、目標を達成することができた。引き続き不法投棄や自動車が放置されない環境を目指します。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？					○	港湾法・条例で定められた本組合の業務です。
	○	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？						
有効性	○	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？					○	一斉清掃や、放置自動車ゼロを目指した港内パトロールのほか、清掃・監視・啓発等の活動を継続することによる抑止効果で、良好な港湾環境の形成に貢献しています。
	○	期待どおりの成果が得られているか？						
効率性	○	最小のコストとなっているか？					○	一斉清掃は地元事業者及び地域の協力を得て実施しており、また、不法投棄や放置されにくい環境を整えることで、ゴミ、放置自動車の発生を抑制しています。

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	引き続き、臨港緑地を不法投棄されにくい環境に整える必要があるため。
課題		取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	
2年度以降の取組			
ゴミの不法投棄、放置自動車は無くなっていないため、今後も継続的な取組を行っていく必要があります。		良好な港湾環境づくりには、ゴミの不法投棄対策や放置自動車の削減・抑制対策は不可欠であり、取組を維持していく必要があります。定期的な臨港地区のパトロール、県民・市民や事業者への啓発に努め、投棄等をされにくい環境を整えます。	